

めた。もちろんその中には、浪曲、講談と言った伝統的な文化もあるでしょう。あるいは歌舞伎というのもあるかもしれない。でも同時に、ヨーロッパでもどこでも、アメリカでも、大変みんな喜んで受け入れている演劇やオペラであるとか、そうしたものをやはり同じように日本に成立させなきゃいけないんじゃないかと考えた。その二つが実は演劇だったんですね。帝国劇場では、はじめは歌舞伎ですけども、その他に様々な演劇が行われるようになって、多くの方々が観劇にみえるようになった。「今日は帝劇、明日は三越」と言っぺらい、演劇と消費文化と言っぺか、これを創り出すその拠点にしようではないかと考えた、それは大成功であったと思います。

実はこれはあまりよく知られておりませんが、渋沢は、明治天皇が亡くなったときに、明治天皇を記念するいろいろな組織あるいは施設が必要だと考えた。その二つが明治神宮の聖徳記念絵画館です。それはたぶん、パリにいたときに見たルーブルと同じものを日本に創れないだろうか考えたのではないかと。明治天皇が亡くなったときに、明治天皇を記念する絵画を創って、それを集めた絵画館を創るのではないかとという提案をした。それは見事に当たりまして、民間の方々から大変な基金が集まり、その結果として、明治神宮外苑に絵画館ができました。その中に納める絵画として、明治天皇を記念する合わせて八〇枚の絵画を、当時流の画家たちに一人一枚ずつ描いてもらいました。中には今でもその八〇枚がきちんと掛かっています。

**越野**：神宮の森もね、スタートは渋沢さんが考えたということですから。

**榊山**：そうですね。提唱していただいたんですから。

### ■顕彰能「青淵」

**越野**：宗家に最後に質問申し上げたいんですけども、これからご子息であります三郎太郎宗家がシニアを務められる顕彰能「青淵」が上演されるわけです。鑑賞をするにあたって、いくつかポイントを観たら良いか、またこの「青淵」の可能性について、最後に三言お伺いできますでしょうか。

**観世**：やはり演じている役者は現代人でございますので、現代のこの空気を吸って、踊ったり舞ったりいたします。誰も渋沢栄一翁にはお目にかかってない、みんな若手がここで演じます。その渋沢翁の精神のよつなものを、いかに舞台上で開花させるか、ご覧になられる皆様方には、想像力を逞しくしてご覧いただきたいと。理屈抜きでお楽しみいただく。この度は、囃子方、それから地謡の出演者監、お能の規範と伝統に則った顕彰能をつくるとして「対峙」を一つにして制作させていただきました。是非そのへんもお楽しみいただきました



左から：観世清和氏、三村明夫氏、榊山紘一氏、越野充博氏

と思います。

**越野**：ありがとうございます。若宗家、十月にカーネギーホールの方で公演をされるということでした。能楽がどんどん世界にも発信される時代になる中で、この「青淵」もいつか海外でも上演されて、皆さんにも渋沢の精神がお伝えできるようなことがあれば何よりかなと思います。

**観世**：はい。

**越野**：今日はそのスタートとしての鼎談でございました。皆様は、歴史の証言者でございます。五〇年後二〇〇年後に、恐らくこの「青淵」、ちゃんと上演されていますし、そのときには渋沢の精神が、ますます世界に広がっていることだろうと思います。さて、これから上演になります。どうぞ皆さん、お楽しみに。最後にお三方の講師の皆さんに、大きな拍手をお願いいたします。(拍手)

**観世 清和 (二十六世観世宗家)**  
室町時代の観阿弥、世阿弥の子孫であり、能楽界の最大の流派、観世流の宗家として、現代の能楽界を牽引している。平成三年観世文庫を設立、理事長に就任。重要無形文化財総合認定保持者。日本藝術院会員。文化功労者。

**三村 明夫 (日本製鉄株式会社名誉会長)**  
日本商工会議所会頭(二〇三年十一月—二〇二二年十月)、名誉会頭(二〇二二年十月—)などを歴任された日本を代表する経済人。

**榊山 紘一 (渋沢栄一記念財団理事長)**  
フランス中世史・西洋文化史の歴史学者。東京大学名誉教授。国立西洋美術館館長、印刷博物館館長等歴任し、渋沢栄一記念財団理事長に就任。

**越野 充博 (進行役・東京商工会議所北支部会長)**  
顕彰能「青淵」制作委員会委員。渋谷クロスFM、しぶさわくん・FM等のパーソナリティとしても活躍中。

